

組織体制

所長

吉富 信太 理工学部 建築都市デザイン学科 教授 建築構造学

副所長

花岡 和聖 文学部 地域研究学域 准教授 地理情報科学

研究メンバー

青柳 憲昌 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授 建築史

阿部 俊彦 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授 都市デザイン、都市計画、まちづくり

泉 知論 理工学部 電子情報工学科 教授 情報システム学

伊藤 真一 理工学部 環境都市工学科 講師 地盤工学

大窪 健之 理工学部 環境都市工学科 教授 文化遺産防災学、防災まちづくり

大場 修 衣笠総合研究機構 教授 日本建築史

岡井 有佳 理工学部 環境都市工学科 教授 都市計画

小川 圭一 理工学部 環境都市工学科 教授 交通工学・交通計画

鐘ヶ江 秀彦 政策科学部 政策科学科 教授 計画理論

川崎 佑磨 理工学部 環境都市工学科 准教授 コンクリート工学、非破壊検査工学

河角 直美 文学部 地域研究学域 教授 歴史地理学

神田 孝治 文学部 地域研究学域 教授 文化遺産保全／防災とツーリズム

金 度源 理工学部 環境都市工学科 准教授 文化遺産防災学、都市地域デザイン

木村 智 理工学部 建築都市デザイン学科 講師 ランドスケープ、建築論、西洋近代建築史

小林 泰三 理工学部 環境都市工学科 教授 地盤工学

桜井 政成 政策科学部 政策科学科 教授 国内外レジリエンス都市政策調査

里深 好文 理工学部 環境都市工学科 教授 河川災害

高橋 学 文学部 地域研究学域 特任教授 環境考古学

寺床 幸雄 文学部 地域研究学域 准教授 人文地理学

土岐 憲三 衣笠総合研究機構 特別研究フェロー 文化遺産防災学・地震工学

豊田 祐輔 政策科学部 政策科学科 准教授 防災まちづくり

仲谷 善雄 情報理工学部 情報理工学科 教授 防災情報システム、認知工学

狭間 恵三子 衣笠総合研究機構 教授 都市政策、文化政策

平尾 和洋 理工学部 建築都市デザイン学科 教授 建築意匠

深川 良一 理工学部 特命教授 地盤工学

福水 洋平 理工学部 電気電子工学科 准教授 信号処理工学

福山 智子 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授 歴史文化建造物の劣化診断・非破壊検査、建築材料学

藤本 将光 理工学部 環境都市工学科 准教授 砂防工学

本間 睦朗 理工学部 建築都市デザイン学科 教授 光環境学、建築電気設備

宗本 晋作 理工学部 建築都市デザイン学科 教授 建築計画

村中 亮夫 文学部 地域研究学域 教授 地理情報システムを用いた住民参加型の安全安心マップ作成に関する研究

持田 泰秀 理工学部 建築都市デザイン学科 教授 建築構造・生産・材料

森田 耕平 文学部 地域研究学域 特任助教 交通地理学

矢野 桂司 文学部 地域研究学域 教授 人文地理学、地理情報科学

山崎 有恒 文学部 日本史研究学域 教授 河川改良史

山田 悟史 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授 建築情報学

山本 理佳 文学部 地域研究学域 教授 文化遺産の保全と活用・災害と観光

SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante			
	政策科学部 政策科学科	准教授	パブリック考古学、 アンデス考古学、文化人類学
SHAKYA, Lata	衣笠総合研究機構	准教授	歴史都市防災まちづくり
<u>専門研究員</u>			
宮崎 彩	衣笠総合研究機構	専門研究員	
李 敏	衣笠総合研究機構	専門研究員	
<u>補助研究員</u>			
白石 陽子	衣笠総合研究機構	補助研究員	
林 祐妃	衣笠総合研究機構	補助研究員	

活動概要

歴史都市防災研究所は文化遺産の宝庫とも言うべき京都において、芸術と文化の保全とそれを支えるコミュニティを含めた災害対策とを一体の物として捉える「文化遺産防災学」の教育・研究拠点を目指し、以下の3つの研究部会において、災害科学、土木工学、建築学、情報学、政策科学、歴史地理学など、文理を連携させた研究活動を推進している。

歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

歴史文化都市の将来の災害リスクを明らかにし、災害時の対応や復興時の状況を歴史的背景とともに具体的に評価していくために、京都をはじめとする歴史都市を対象にした、時空間的なデータ基盤を構築し、歴史文化都市ならびに文化遺産の災害リスクや空間の質に関する地理空間分析とこれをふまえた評価ツールの開発を試みる。

歴史文化都市の防災技術研究部会

「歴史・文化・意匠的価値」と「防災性能」を兼ね備えた歴史文化都市・地域の防災技術を確認すること目的に、歴史文化都市空間の歴史的・文化的価値を保全する防災技術を向上させるとともに、他の研究部会とも連携して、歴史文化都市・地域のハザード情報と歴史文化都市空間の歴史的・意匠的・防災技術的価値評価を整理する。

歴史文化都市の防災デザイン研究部会

「歴史・文化・意匠的価値」と「防災性能」を兼ね備えた歴史文化都市の防災技術を確認することを目的に、伝統的な知恵と地域の歴史・文化を生かした耐震設計・改修技術や防耐火システム・機器の開発、歴史文化地域の地盤環境およびハザード評価を踏まえた防災対策の提案を行うとともに、受け継がれた地域環境とコミュニティ社会の特性とニーズに合った計画と政策を提案する。

上記に加えて、今年度は初めて、「ユネスコチェア国際研修」をハイブリッドで開催した。前半をオンライン、後半をオンサイトとし、研修者の招聘も2019年度ぶりに行った。その結果世界各国での文化遺産の防災に関わる人材・研究者とのネットワークの維持を図ることができた。国際研修の最終日には出版を記念したシンポジウムを開催し、活発な議論が行われた。GIS技術を援用した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発、歴史都市および文化遺産の災害とその対策に関する情報アーカイブの構築などを学内外の関連機関と共同で行うことで、国際展開・社会連携を推進している。さらに（3本柱の残り2つ）、国際学術シンポジウムである「歴史都市防災シンポジウム」の年次開催も初めてハイブリッド開催をし、歴防20周年を記念して、立命館土曜講座とのコラボレーションで公開講演会を実施、「みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト」も例年と変わらず多数の応募を集め、昨年度に引き続きハイブリッドにて表彰式を開催した。

また、今年度も引き続き文部科学省私立大学等経常費補助金（研究施設運営支援）により、上記の研究部会における研究活動に加え、より発展的な研究プロジェクトを推進した。

それらの研究成果については、本報告書に第4章に掲載する。